

第3次芦屋市地域福祉計画評価シート 団体

団体名	芦屋市老人クラブ連合会
所属人数	2,953人(男女の比率 男:女 = 3:7)
平均年齢	79歳
任期の有無	有(年) ・ (無)
役職の有無	(有)(任期:なし) ・ 無

1 誰でも参加できるか ▶▶▶▶ できる(ただし、年齢要件や地域制限はある)

老人クラブ連合会が実施しているサークル(19のサークルがある)に参加したくて、連合会に入るケースが多いのではないかと。女性会員の口コミなどで知ったと言って、加入に至ることも多い。

2 新たに始めた活動はあるか ▶▶▶▶ ある「はぴねすカードの発行(27年度から)」

目的:商店と高齢者間とでつながりが生まれ、芦屋市が元気になる。会員の増加。

内容:カードを会員に発行しており、協力店舗(160店舗以上)で提示すると店舗からの特典が受けられる。店舗にとっても集客が見込め、会員にとっては特典が受けられるという互いにメリットがある制度。

動機:先駆的に実施している市に話を聞き、会員増にも効果があるいい取組だと思った。

3 活動の担い手は足りているか ▶▶▶▶ 足りていない

課題:報酬はなく、負担だけが大きくなると言われ、なり手がいない。無料で使用できる場所が減り、会場探しなども役員の負担。また、役員不足でクラブそのものが休会や消滅となり会員減少につながる。

方法:魅力ある老人会を目指し、様々なサークルを立ち上げ、入会のための周知にも取り組んでいる。

4 外部(役員以外の者を含む)からの意見を団体の活動等に取り入れているか ▶▶▶▶ はい

地元で仲間と楽しく健康的に過ごすため、できる限り柔軟に対応できるよう規定なども見直した。

5 他の団体と活動することはあるか ▶▶▶▶ ほとんどない

シルバー人材センターや和風園と高齢者スポーツ大会は一緒に行ったが、その他にはない。シルバー人材センターは有償で、こちらは有志のボランティアである部分も活動を共にできない一因ではないか。

また、自治会などと密に意見交換ができれば、更なる人とのつながりができ会員の増加が期待できるかもしれない。社協とも目的が同じ部分の取組については、何か一緒にできるかもしれない。

6 所属の団体(活動も含め)のPRや感想

住み慣れたところで仲間と楽しく健康でいられる場所を作っていきたいと思い、日々活動している。高齢者にとって行くところがあるということは幸せなこと。喜んで集まってもらえる居場所づくりをしばらくは目標に取り組んでいきたい。